



第一篇
財政論

2960



114
A1412
1



財政論第二卷
租稅論第一篇目次

總論

租稅、義解

租稅義解、辨妄

租稅ハ政府ノ職務ト人民ノ義務ノ交換ニアラサルヲ

租稅ハ保險料ニアラサルヲ

租稅ハ只ニ行政費及ニ國ノ資本ヲ改進スル為

メノ一般ノ費用ニアラサルヲ

租稅ハ只政府ノ費用ヲ支給スル為メニ國民カ之ヲ拂フニ過キサルヲ

租稅ノ善不善

大正十一年四月
隈侯爵邸寄贈

大正官

租税ハ一度ヒ徴收スルモ遂ニ人民ニ帰スヘシト
ナスハ非ナリ

重税ノ説アダムスミス氏トマクラツク氏ト相合
サル

最軽ノ租税ハ必スシモ最良ノ租税ニアラサル

租税ヲ以テ有益ナル仕拂法トナス説
租税ヲ以テ有益ナル仕拂法トナスハ多少其實ア
ル

租税ハ國家ノ集合貯蓄ノ一種タルヘク又一種マ
ラサルヘカラサル

租税ニアラサレハ施ス能ハサル事業少ナカラサ
ル

租税徴課ノ程度

租税ト國民ノ歳入ノ比例

輕税

白耳義國ノ租税

不輕不重税

英國ノ租税

重シト雖尚堪ユヘキノ税

佛國ノ租税

不
收
官

財政論第二卷

租稅論

第一篇 租稅總論

官有地官工業ノ收入ハ將來政府歳入ノ一大要項タル
ヘシト雖氏方今ノ勢ヲ以テ之ヲ見レハ各國ニ於テ歳
入ノ最モ要項ヲ占ル者ハ租稅ナリ之ヲ以テ財政學ノ
要ハ租稅ノ得失ヲ探究シ如何ナル稅法ハ最モ官民ノ
便利ナルヤ其稅ハ如何ナル人民ニ如何ナル效驗ヲ生
スヘキヤ租稅ハ生産上及ヒ國民ノ自由道德上ニ如何
ナル效驗ヲ生スヘキヤ論究スルニアリ
先ツ之ヲ論スルニ當テ租稅ノ義解ヲナサバ爾ヘカラ
ス抑々政府カ直接若クハ間接ニ人民ヨリ若干額ヲ徵
收シ而シテ人民カ直ニ見ルヘキノ報酬ヲ得サル時ハ

世人之ヲ稱シテ租稅ヲ拂フト云々租稅ノ何物タルヲ
鮮セサルカ如シ然ルニ世ノ經濟家財政論者ハ租稅ノ
義鮮ニ付テ一定ノ說ヲ有セス各々自家ノ說ヲ唱ヒ經
濟學財政學ノ基礎ヲシテ一ニ歸スルト能ハサラシメ
ントス故ニ今租稅ノ義鮮ヲ定ムルト冢モ肝要ナルヘ
シ
租稅ハ政府ノ費用ニ給スル爲メニ政府カ直接若クハ
間接ニ人民ニ賦課スル者ヲ云フ而シテ此徵收セシ稅
金消費ノ當否被稅者カ其質ヲ鮮スルト否ラサルト之
ヲ公益ニ用ユルト私益ニ用ユルトハ經濟上又社會上
ニ於テハ大ニ利害ヲ異ニスベシト雖租稅ノ生質ニ至
リテハ未々嘗テ變スル所アラサルナリ譬ヘハ土耳其
ノ如キハ其徵收セル租稅ハ殆ント外債元利ノ仕拂王

室ノ奢侈ニ消費シ盡シ人民ハ其報酬ヲ得サルナリ然
ラハ土耳其國民ノ拂フ所ノ者ハ租稅ニアラスト云ハ
シカ曰ク否ナ均シク之レ租稅ナルヘシ然ラハ則チ一
國ノ政府カ成規ニ據リテ人民ニ賦課シ政府ノ費用ニ
給スル者ハ都テ皆租稅ト稱スベキナリ何ソ必スシモ
理論ヲ以テ強テ從來ノ語意ヲ變センヤ
然ルト雖租稅ノ徵收法消費法ノ當否ニ至リテハ衆說
一定セス議論相及スルモ敢テ怪シムニ足ラサルナリ
經濟學ノ大家スミカゼーリカード氏ハ皆租稅ハ人民
ニ賦課シテ政府ノ費用ヲ給スル者トセリ爾後クール
セルセニユイルプルードンクテマゲランギョセフガ
一ニヤノ諸氏モ亦皆此大意ニ從ヒ只或ハ之ヲ詳解シ
或ハ少シク添刪セシノミニシテ今日ト雖此意ヲ變更

スルヲ能ハサルヘシ若シ一回ヒ此意ヲ曲クル時ハ却
テ誤謬ヲ免レサルヘキナリ只余輩カ云ハント欲スル所
ノ者ハ凡ソ政府ノ費用ハ宜シクカヲ極メテ社會ノ為
メニ正阜ニシテ有益ナルヲ計ルヘシト云フニアリ千
七百八十九年ニ於テミラボー民カ委負總會^{コンステイブルズ}ノ為メニ
公布ヲ作り佛國人民ノ愛國心ヲ煽動シテ國用ヲ給セ
シメントセシ其文ニ云ヘルアリ

租稅ヲ納ルハ國家人民ノ義務ニシテ其得ル所ノ利
益ニ拂フ償補代價ナリ云々租稅ハ公安ヲ買フ為メニ
人民カ各々前拂ヲナス者ニシテ一般公衆ノ為メニ各
人一箇ニ徵課スル者ナリ云々

此鮮ハ未タ精明ニシテ盡セリト云フヘカラスト雖亦
以テ迷誤ノ意ヲ見サルモノニシテ敢テ前世後世ノ理

論家ノ義鮮ト同一視スヘキモノニアラサルナリ

今租稅ノ義鮮ヲ見ルニ概シテ之ヲ三項ニ分ツヘシ第
一説ニ曰ク租稅ハ政府ノ職務ト人民ノ義務ト相交換
スル者ナリ第二説ニ曰ク租稅ハ公安保護ノ請負料ナ
リ第三説ニ曰ク租稅ハ行政費及ヒ國家ノ資本ヲ改進
スル一般ノ費用ナリト世ノ租稅ノ義鮮ヲ下ス者概テ
此三者ノ一ヲ出サルナリ此三説ノ如キハ之ヲ論スル
ト頗ル奇巧ナリト雖以テ盡セリト云ヒ難シ此三説ヲ
集メテ一團トナスモ未タ以テ完全ノ義鮮ヲ與フルニ
足ラス只第三説ノ如キハ近年ノ新鮮ニシテ陽ニ理學
上ノ語氣ヲ粧フテ以テ之ヲ執ル者頗ル多シ
第一説ニ租稅ハ政府カ盡クス所ノ職務ニ仕拂フ代價
ナリト云フハ未タ適切ナリト云ヘカラストマダムカレ

マンスルワイヤ氏ハ此意ヲ述ヘテ左ノ辭ヲ下タセリ
 租税ハ人民ガ社會ニアリテ現在過去將來ニ於テ受
 クヘキ者又前世ガ後世ノ為メニ消費セシ者ノ報ト
 シテ世ニ仕拂フヘキ者ニシテ勞力若クハ貨物ヲ以
 テ仕拂フ所ノ一國生産ノ一部ナリ
 マダムルワイヤ氏ノ言ハ少シク修飾ヲ免レスト雖租
 税ノ義鮮中竅モ誤リ少ナキ者ノ一ト云フヘシ如何ト
 ナレハ同氏ノ義鮮ハ他人カ未タ嘗テ説キ及ホサ、ル
 所ニ及ホシ一國ノ租税ハ只ニ政府カ今日盡ス所ノ職
 務ニ仕拂フノミニアラスシテ其幾分カハ國債元利ノ
 仕拂ニ供スル者ナルヲ論スレハナリ方今開明諸國ノ
 民タル者カ租税ヲ拂フハ只ニ政府ノ盡ス所ニ報エル
 ノミニアラス又前世カ後世ノ為メニ有益ノ事ヲナセ

シカ為メニ報エルノミニアラス今世若クハ前世ノ人
 カ失擧失敗シテ國民ノ負擔ヲ大ニスト雖亦之ヲ分擔
 セサルヘカヲサレモ以テ元來政府ハ特ニ有益ノ事
 ノミヲ行ナハス往々失擧免カレサルモノナリ然リ
 ト雖政府ノ消費スル所ノ者ハ其當否ヲ問ハス悉皆永
 久ニ人民ヲシテ之ヲ負ハシムルヲ以テ各國ノ負債ハ
 其有益ニ費ヤセシト否ヲサルト合テ巨大ノ額ニ達シ
 租税收入ノ過半ハ負債元利ノ仕拂ニ用ユル者比々皆
 然リ凡ソ政府ノ所業ハ國民ノ名ニ據ソテ之ヲナスモ
 ノニシテ國民ハ善惡共ニ其責任ヲ負ハサルヘカラス
 只現世ノ人其責任ヲ負フノミナラス國家後世其餘慶
 餘殃ヲ存スル者ト之ヲ負ハサルヘカラス以テ租
 先ノ負債ハ其費用ト當否ヲ問ハス後世子孫其責ニ任

スヘキモノナリ是故ニ今世ハ前世ノ為メニ租税ヲ拂
ヒ後世ハ今世ノ為メニ租税ヲ拂フハ當然ノ事ナリ然
ルヲ只租税ハ政府ノ尽ス所ニ報ユルモノナリト云フ
ハ前世ノ負債ハ今世之ヲ負ハスシテ可ナリ今世ノ負
債ハ後世之ヲ拂ハサルモ可ナリト云ニ異ナラス現ニ
此義解ニ相類スル所ノ議ヲ唱ヘテ國債ノ消却ヲ拒ミ
シ者少ナカラス亞米利加合衆國ニ於テ南北ノ乱定マ
ルヤ或ハ以テ之ヲ戰乱中合衆國政府ニ於テ募集セシ
負債ハ以テ國債トナスヘカラスト其説ニ曰ク談戰争
タルヤ徒ニ國家ヲ殘害セシニ過キサルモノナリ何ソ
其國家ヲ殘害スルニ消費セシ者ヲ以テ人民ニ負ハシ
メ其利子ヲ拂ハレムルノ理アラシヤト此説タルヤ信
義ヲ守リ國民相維持スルノ主義ニ背戾スル者ト云ハ

サルヲ得ス斯ノ如キ弊アルヲ以テ故ニ余輩ハ租税
ノ義ヲ解シテ只政府ノ盡ス所ニ報ユル所ノ者ナリト
云フハ盡セリトナサシル所以ナリ
然リト雖若シ此義解ノ意ヲ以テ一方ニ偏セス一級ニ
云フモノナリトセハ或ハ過チナキニ近カラシカ即チ
國民カ納ル所ノ租税ハ其國ニ於テ各々其得ル所ノ
直接若クハ間接有形若クハ無形ノ利益ニ報スル所ノ
者ニシテ政府ノ現今ノ保護若クハ過去ノ恩惠ニ報ス
ルハミナラス又政府カ漫然募集セシ公債ニシテ未タ
嘗テ利益ヲ被ラサル者ト雖國民相持テ義務トシテ其
利子ヲ拂フモノナリトノ意ヲ含有スルモノトシテ怨
シテ之ヲ見レハ又敢テ不可ナル所ナカラン又政府ノ
措置其當ヲ失ヒ租税ノ徵收苛嚴ニ過クルヲアリト雖

概シテ被稅者カ之レカ償補ヲ得ルヲハ其拂ヒレ所ノ
金額ヨリ遙カニ大ナルヘシ之ヲ以テタトヘ自國ノ政
府ハ重斂ヲナスモ尚能ク之ヲ忍ビ外國ニ移住スル者
ハ實ニ寥寥指ヲ屈スルノ數ニ過キサルナリ然ラハ則
チ政府ノ徵收ハ重シト雖尚其尽ス所ニ報エル者ナリ
ト稱スルモ可ナルヘシ然リト虽此点ヨリ之ヲ見テ租
稅ハ政府ノ尽ス所ニ報エルモノナリト云フ時ハ經濟
理財ノ要理ニ背戾スルノ患アリ故ニ曰ク租稅ハ常ニ
政府ノ職務ト人民ノ義務ノ交換ナリト云フヲ得サル
ナリト

第二說ニ租稅ヲ以テ公安保護ノ請負料ナリト云ハ第
一說ニ比スレバ遙ニ及ハサルモノト云フヘシ談説ノ
如キハ只政府ノ職務ヲ以テ憲兵ト見做スノ大過アル

モノナリ抑々政府ノ職務ハ決シテ人民ヲ護衛スルニ
止マルモノニアラス見ヨ歐洲各國政府ノ經費ハ其人
民保護ニ関スル所ノ者實ニ全經費ノ一小部分ナルヲ
方今佛國政府ノ經費中憲兵監獄都鄙ノ警察裁判所ノ
費用ニ関スル者ハ僅カニ全額二十分ノ一ニ過キス假
令之ニ海陸軍費ヲ加フルモ尚全額三分ノ一ニ過キザ
ルナリ而シテ海陸軍ノ事タル一ニハ國威ヲ擴張シ國
名ヲ維持スルニアリテ專ラ治安ヲ保護スルニアリト
云フヘカラサル者ナリ是故ニ租稅ヲ以テ公安保護ノ
請負料ナリト稱スル時ハ其區域甚々狹隘ニシテ租稅
ノ意ヲ尽スニ足ラス若シ果シテ此義解ヲ以テ租稅ノ
真意トセハ政府ハ有形上無形上ニ於テ一切國家ノ進
歩改良ニ費ヤス所ノ者ヲ以テ人民ニ賦課スルヲ能ハ

スレテ通信、教育、会社等、事ヲ獎勵庇保スルヲ得サ
ルヘシ

茲ニ又租稅ヲ以テ公安保護ノ請負料トナスハ當然ナ
ラサル一他ノ理アリ夫レ保險會社ハ政府ノ外一切請
負ヲ委頼シタル財産ノ損失ヲ請負フ者ニシテ火災、海
難、凶年、傳染病、為メニ不動産、船舶、收護、家畜ヲ失フ
如キ天災ヲ會スルニ當リテ各人一個ノ為メニ其損失
ヲ償ナフ者ナリ然ルニ政府ハ假令火災、海難、洪水、乾乱
アリト雖被害者ノ為メニ敢テ償ナフヲナカルヘシ偶
々之ヲナスモ些少ノ金額ニシテ只ニ救助ノ為メニス
ルニ過キサルナリ政府カ請負フ所ノ者ハ人民ノ
権理ニシテ各人民ヲシテ他人ノ為メニ害セラレサ
シムルニ不リ天災ニ遭ラテ財産ヲ失ヒ若クハ他人ノ

為メニ害セラルト雖政府ハ之ヲ償ナフ者ニアラス若
シ警察ノ政調ハスレテ盜賊暴行シ人民ノ財産ヲ奪フ
トアレハ政府ハ此賊ヲ踪索追捕スヘシト雖既ニ其物
品ヲ消費セシ後ナレハ政府ハ敢テ賊ノ為メニ損失ヲ
償ナハサルヘシ

由是觀之ハ政府ハ決シテ保險會社ノ職ヲナスモノニ
アラス租稅ハ決シテ公安保護ノ請負料ニアラサルナ
リ假令ヒ其語氣ヲ加減シテ租稅ハ保安ノ勞ニ報ユル
者ナリト云フノ意ナリトナスモ未タ以テ之ヲ完全ナル
義解ト云フヲ得サルヘシ如何トナレハ政府ノナス所
ノ者ハ只ニ保安ニ止マラス加之ナラス租稅ハ只ニ前
世今世ニ於テ政府カ國民ノ為メニスル所ノ者ニ報ユ
ルニ止マラスレテ國民相維持スルノ主義ニ據リ政府

一切ノ費用ニ給スル者ナレハナリ

第三説ニ租税ハ行政費及ヒ國家ノ資本ヲ改進スル一
般ノ費用ナリト云ハ頗ル奇巧ナル義解ト云フヘシ此
義解ハメニイエヤ氏ノ説ニ成ル者トス氏ハ輓近歐洲
ノ財政法ノ改正ニ於テ與リテカヲリシ者ニシテ租税
ハ專ラ資本ニ課スヘシトノ議ヲ唱ヒシ者ナリ(千八百
七十四年巴里刊行メニイエヤ氏ノ「テオリ、エ、フツプ
カシヨシ、デ、ラムポ、スル、レ、カピタル」ヲ見ルヘシ)此説
タルヤ遙カニ前二説ニ優レルモノト云フヘシ然リト
雖若シ行政費一般ノ費用國家ノ資本ト云ヘル語意ヲ
取リテ廣ク見サレハ以テ當レリト云ヒ難シ此義解々
ル租税ハ政府カ有形無形ノ職務ヲ尽ス為メニ用エル
所ノ經費ニ給スル者ナルヲ説キ他ノ費用ニ及ホサス

然ルニ租税ノ用ヒラル、所ノモノハ決シテ此ニ止マ
ラス必ス他ノ費用ノ存スルアリ只ニ現今ニ於テ是等
ノ費用ノ存スルノミナラス將來ニ於テモ常ニ存スヘ
キナリ然ルヲ將來ニ於テハ人民舉テ正良聰慧ナルヘ
キヲ以テ政府モ事ヲ行ナフ慎重方正ナルヘシト信ス
ルハ思ハサルノ甚々シキ者ト云フヘシ凡ソ政府ノ費
用ハ其消費ノ當否ニ関セス國民タル者其責ニ任セサ
ルヘカラス假令政府カ自己ノ不明ナルカ若クハ隣國
ノ失舉ニ誘ハレ誤テ國家ノ資本ノ改進トナラサル所
ノ經費ヲ要スト雖國民ハ租税ヲ納レテ其費ニ給セサ
ルノ理ナカルヘシ然ラハ則チ此義解タルヤ己ニ論セ
シ所ノ國債ノ償却及ヒ國際ノ軍費モ亦國民ノ負擔ス
ル所ナルヲ問ハサルモノナリ

斯ノ如ク世租税ノ義解ヲ下タス者概シテ此三項ニ帰
スト雖皆未タ完備トナスヲ得ス租税ハ只ニ職務ト義
務ノ交換ニアラサルナリ租税ヲ以テ保除ノ請負料ナ
リト称スルハ甚タカナク却テ益々非ナリ租税ヲ以テ
保安ノ勞ニ報ユル者ナリト云フ時ハ政府ノ責任及ヒ
人民ノ義務ノ一部分ニ止マル又租税ハ行政費及ヒ國
家ノ資本ヲ改進スル一般ノ經費ナリトナスモ尚只其
一部ヲ説キ政治上社会上實際ノ形情ヲ忽カセニスル
者ト云フヘシ然ラハ則チ租税ノ義解ヲ如何シテ可ナ
ランカ曰ク

租税ハ政府一切ノ費用ニ給スルカ爲メニ國民ニ賦
課徴收スルモノナリ

租税ノ義解ヲ以テ片言ニシテ尽シント欲セハ右ニ如

クハナシ然リト雖若シ此義解ヲ以テ簡易平凡ニ過ク
ルトセハ左ノ義解ヲ用ユヘシ

租税ハ政府カ今日ニ尽シ若クハ往年ニ尽セシ所ノ
職務ニ報ユル者ナリ加之ナラス國民相維持スルノ
主義ニヨリ政府ニ係ル一切ノ經費ハ其當否善惡ヲ
問ハス國民タル者カ負擔セサルヘカラサル者ヲ云
フ

次テ余輩ハ租税ハ善ナルモノカ不善ナルモノカヲ詳
究セン凡ソ租税ヲ以テ善ナリト云ヒ不善ナリト云フ
ハ只ニ理論ヲ以テ決スヘキモノニアラス其事實如何
ニ據テ決スヘキモノナリ

租税ハ國民ノ歳入ヲ減シ爲メニ人民ノ快樂ヲ殺キ若
クハ營業資本ノ増加ヲ抑制スル者ナリト云ノ點ヨリ

レテ之ヲ見レハ租税ハ不善ナリト云フヲ得ヘク之ニ
反シテ租税ヲ以テ道路海港等ヲ築ク時ハ一般人民ノ
為メニ營業ノ便ヲ開キ大ニ國家ノ利ヲ起ス者ナリト
云ノ点ヨリシテ之ヲ見レハ租税ハ善ナリト云フヲ得
ベシ由是觀之ハ理論ヲ以テ断然租税ハ善ナリ或ハ不
善ナリト定ムル能ハサルカ如シ只其場合ニ據リテ租
税ノ効驗ヲ檢究シ果シテ社会ヲ困シムルカ將々其富
ヲ増加スルヤヲ見テ其善不善ヲ定ムヘシ是故ニ國ノ
生産ヲ盛ニスヘキ事業（譬ヘハ人民若クハ会社等カ私
ニ企テ及フハカラサル工事ノ如キ）ニ租税ヲ費用スル
時ハ租税ハ善ナリ之ニ反シテ租税ヲ以テ生産無益
ノ費用ニ給スル時ハ租税ハ不善ナリト云フヘキナリ
第一ノ場合ニ於テハ租税ハ善ナリト云フト雖果シテ

某ノ事業ハ國家ノ生産ヲ盛ニスヘキヤ否ヤハ常ニ
疑ヲ免レサルヘシ如何トナレハ古今ノ經歷ニ見ルニ
政府ノナス所ハ往々輕舉ノ失ヲ免カレサレバナリ
世或ハ租税ノ理ヲ推究セス根リニ偏見ヲ以テ断シテ
曰ク租税ハ常ニ善ナリ假令常ニ善ナラサルモ殆シド
決シテ不善ナルトナシト其說ニアリ一ニ曰租税ハ一
度ニ之ヲ出スト雖再ニ被稅者ニ復シ遂ニ幸福ヲ與フ
ル者ナリニ曰ク租税ハ人民ノ勤儉努力ヲ強ク若ク
ハ之ヲ奨勵スルノ効アリト世尚此說ヲ固守スル者ア
リ其言ニ曰ク第十八紀ノ末ニ當リテ亞米利加ノ戰第
十九紀ノ始メニ於テ佛蘭西ノ戰ナクシハ千八百二十
年ノ頃ニ當リ英國ノ富何ヲ以テカ能ク斯ノ如キヲ
得ンヤト請フ此ニ說ヲ論究セン

第一説ハ竅モ是ニ似テ竅モ非ナリ第二説ニ至リテハ
必シク其實ナキニアラスト雖言ヲ飾ルヲ其実ニ過キ
却テ大過ヲ免レサル者ト云フヘシ
租税ハ假令直接ニ其之ヲ拂ヒシ者ノ手ニ復セスト雖
他ノ國民中ニ落ル者ナリト云フ所ノ説ニ曰ク政府ノ
費用ハ悉ク俸給若クハ勞銀ニ供スルモノナリ凡ソ人
民カ政府ニ納ル、所ノ貨幣ハ役負ノ俸給ニ宛テ若シ
クハ直接ニハ勞銀トシ間接ニハ製造家及ヒ商賈ノ物
品ヲ買ヒ勞力者ノ仕拂ニ供スルヲ以テ尚所有主ニ拂
ヒ疾スト云フヘシ是故ニ租税ハ一人ニ取ルモ之ニ均
シキ額ヲ以テ他ノ一人ニ拂ヒ疾ストヲ得ヘキ者ニシ
テ即チ被稅者ニ取ル者ハ政府ノ役負勞力者物品ヲ政
府ニ賣ル所ノ製造家若クハ債主ナル資本家ノ得ル所

トナルト

假リニ斯ノ如ク論スル所ノ者ヲ以テ真ナリト見做ス
モ之ニ擬リテ租税ハ決シテ不善ナル者ニアラスト云
フヲ得サルナリ如何トナレハ被稅者ハ政府ノ役負
勞力者物品ヲ政府ニ賣ル所ノ製造家若クハ商賈及ヒ
資本家ヲ利センカ為メニ損害ヲ被ルヘケレハナリ故
ニ若シ租税ノ徵收額行政費及ヒ國債元利ノ償却ニ要
スル高ニ超エルヲアレハ被稅者ハ不平ヲ訴フルモ妨
ケナカルヘシ然ルヲ實際ニ於テハ被稅者及ヒ政府ノ
役負政府ニ物品ヲ賣ル所ノ製造家債主ナル資本家ハ
同一體ノ人民ナリトセンカ誤レルノ甚々シキ者ト云
フヘシハミルトン氏ハ該説ヲ駁シテ曰ク租税ヲ課シ
テ得ル所ノ貨幣ハ再ヒ之ヲ納レシ者ニ拂ハルヲ以テ

被稅者ニ於テ損失ナカルヘシト云ハ一賊ヲ捕ヘテ其
白狀ヲ聽クニ某商ノ金若干ヲ竊メリ然レトモ後此金
ヲ以テ同シ商店ニ於テ物品ヲ買ヘリト云フ故ニ其所
為ノ罪スヘキナキヲ以テ之ヲ赦サント云フト何ソ異
ナラント奇巧ニシテ片言能ク其意ヲ尽ス者ト云フヘ
シ

被稅者カ租稅ヲ納レテ得ル所ノ償補ハ行政上若クハ
租稅ヲ以テ起セル有益ノ工事ニ過キサルナリ若シ徒
ニ役負ノ數ヲ増シ若クハ其俸給ヲ増シ又外面ヲ修飾
スル工事ノ為メニ無益ノ費用ヲ増シテ租稅ヲ増加セ
ハ被稅者ハ其拂フ所ニ對シテ充分ノ償補ヲ得サルヤ
明カニシテ人民ニアリテハ不平ヲ訴フルノ理アリマ
クラツク氏ノ言ニ曰ク政府ノ經費ヲ減シテ租稅ヲ減

スルハ被稅者ニアリテハ尚必需品ノ價下落シテ利ヲ
公衆ニ與フルカ如キノ利アリト實ニ名言ト云フヘシ
然レトモ此利タルヤ費用節減ノ為メニ政府ノ職務ヲ
缺カス若クハ之カ為メニ有益ノ工事等ヲ妨ケサル時
ニ於テノミ存スル者ト知ルヘシ

止ヲ得サルノ場合ニアラスシテ徒ニ役負ノ數若クハ
其俸給ヲ増シ又利益疑ナキ者ニアラスシテ政府ノ工
事ニ多數ノ勞力者ヲ使用シ或ハ製造家ニ物品製造ヲ
命スルカ為メニスル所ノ租稅ハ國家ノ富及ヒ人民ノ
幸福ノ發達ヲ妨クヘシ若シ濫リニ無用ノ經費ニ人民
ノ膏血ヲ絞ラス此資本ヲシテ被稅者ノ手ニ存セシメ
ハ人民ハ自ラ之ヲ以テ製造家商賈或ハ農民ノ物品ヲ
買ヒ以テ勞力者及ヒ勞業者ニ仕拂ヒ或ハ新々ニ工業

ヲ起シ或ハ土地ヲ改良スヘシ其使用ノ方法如何ヲ問
ハス政府ノ贅費ヲ省キテ人民ノ自ラ之ヲ用ユルニ任
セハ其效驗ハ必ス政府ノ自ラ之ヲ消費スルニ勝リ國
民各自ノ幸福ヲ増シ一般人民ノ為メニ利スルヲ蓋シ
疑ヲ容レサルナリ元來租稅ノ收入餘リアル時ハ役負
ノ數從ツテ増加スルノ弊アリ凡ソ役負ノ多キニ過ク
ルハ決シテ好ミスヘキ者ニアラス如何トナレハ役負
ナル者ハ給ヲ人民ノ膏血ニ仰ク者ニシテ農工商三民
ノ食客ナレハナリ是故ニ役負多キニ過クル時ハ徒ニ
一般ノ費用ヲ増シ人民ヲ苦シムルニ過キサルナリ
此ニ於テカ租稅ハ一旦人民ヨリ徵收スト雖モ後ニハ
俸給トシ勞銀トシ物品買上代トシ國債ノ元利仕拂ト
シテ人民ニ配賦セラルヘキヲ以テ被稅者ヲ害スル者

ニアラサルナリトナスノ迷忘タルヤ明カナルヘシ
アダムスミス氏ハ千六百八十八年ノ亂ニ依リ巨額ノ
軍費ヲ要シ英國ノ租稅増加セシヲ論シテ云ヘルアリ
若シ英國ノ資本ヲ以テ軍費ノ一方ニ投スルノ不幸ナ
ク國民ノ手ニ存スルヲ得セシメハ蓋シ其一大部分ハ
有益ノ事業ニ用ヒラレ家屋ヲ建築シ荒蕪ヲ開拓シ既
耕ノ地ヲ改良シ製造ヲ盛ニシ農工一般ノ生産年ニ進
ミ英國ノ富政府ノ歲入ヲ増加シ大利ヲ後世ニ遺セシ
ナルヘシト此有名ナル經濟家ノ言タル只ニ英國ノ場
合ニ於ケルノミナラス租稅ヲ徵課シテ無益ノ消費ニ
供スル時ハ常ニ此嘆ヲ免レサルヘシ
然ルニ或ハ以テラクアダムスミス氏ノ言タル過實ノ
誹ヲ免レサルナリ如何トナレハ當時軍費ニ供セシ者

ヲシテ人民ノ手ニ存セシムルモ人民ハ未タ必シモ全額ヲ以テ國家資本ノ増加ニ用ヒサルヘシ只ニ全額ヲ用ヒサルノミナラス其大半ハ無用ニ消費セラレシナルヘシト其言理ナキニアラス然ルニ又曰ク後日ノ実況ヨリシテ推シテ之ヲ見ルニ當時若シ英國ノ租稅斯ノ如ク重カラサルモ人民ノ勤儉ヲ盛ニシ國家ノ資本ヲ増加スルニ足ラサリシヤ明カナリトマクラツク氏ハ深ク之ヲ信シテ辨スル丁カメリ嗚呼此說タルヤ亦偏見ヲ免レサル借ト云フヘキナリ

此說ヤ租稅ハ被稅者ヲシテ止ヲ得ス勤儉ナラシムヘシ假令勤儉ヲ強ヒサルモ多少勤儉ヲ獎勵スル者ナリトスルノ說由テ起ル所以ナリ余輩ヲ以テ之ヲ見レハ該說タル多少理ナキニアラス「雖租稅ニシテ此好

結果ヲ生スルハ徵課重キニ過キス又之ヲ漸次ニ行フ時ニ於テノミ然リ

マクラツク氏ノ言ハ大ニスミス氏ノ言ニ及セリ曰ク千六百八十八年ノ乱ナカリセハ當時軍費ニ供セシ所ノ資本ノ大半ハ以テ生セサリシナルヘシミス氏ハ租稅増課ノ國民ニ於ケルハ尚各人一個ニ於テ家族増加シ或ハ必用費額擴張セルト均シキ勢カアルヲ遺忘セリト云フヘシ千七百九十三年ノ戦争ニ當リテ租稅増加シ上下共ニ其重斂ヲ覺エ却テ國民ノ勉強心ヲ鼓舞シ進取ノ氣ヲ獎勵シ新奇ヲ發明スルノ望ヲ振起セリ若シ國民ヲシテ重課ニ堪ヘサラシメハ此效驗ナカリシヤ疑ヲ容レザルナリ然ルニ當時ノ徵收ハ幸ニシテ人民ノ全カヲ倒スニ至ラス其稅ヤ重シト雖努力

セハ以テ家産ヲ増加スルニ足レリ之ヲ以テ却テ國民ノ節儉勉強ヲ作興スルノ効ヲ致セリ元來人ノ性タル期望ニ據リテ鼓舞セラルト雖亦恐懼ニ據リテ振起ス租税ノ如キハ則テ恐懼ニ據リテ人心ヲ起スモノト云フヘシ凡ソ社會ノ上位ニ立タンコトヲ欲スルノ心ハ衆庶皆一ナリ之ヲ以テ租税ノ徵收増加スル時ハ外ニシテハ現時ノ位地ヲ保ツ能ハサルノ恐レアリ内ニシテハ衣食住ノ安逸今日ノ如クナル能ハサルノ恐レアリ此二者アルヲ以テ租税ノ増加ハ時トシテ民ノ勉強心ヲ振起スルノ效驗ヲ生ス若シ亞米利加ノ乱佛蘭西ノ戦ナクシハ英國人民ノ勤儉勉強未タ嘗テ斯クノ如ク盛シナラサルヘシ如何トナレハ之ヲナサシテ可ナルヲ以テナリ然ラハ則テ公平無私ノ心ヲ以テ之ヲ見

レハ租税増課ノ功能ク勉強勤儉ヲ勵マシ其得ル所ハ失フ所ノ軍費ヲ償フニ餘リアリ假令是等ノ戦乱ナカラシムルモ英國資本ノ増加ハ蓋シ今日ニ過クル能ハサルヘキナリマクラック氏ノ「オンタキセイション」
「オンドゼフオンゲイグシステム」
第十一葉
マクラック氏ノ言ニ之レ即チ「オプチミスト」
凡ソ天下ノ事必ス善ニ帰スヘシト期望スル者之ヲ「オプチミスト」ト云フノ説ニシテウオルジル氏ノ所謂ル勤勞ヲ以テ能ク百難ニ勝ツ者ナリ凡ソ人ノ体力腦力ハ止ヲ得サルニ奮フモノニシテ租税ハ即チ止ヲ得サル者ノ一ナリ之ヲ以テ亦能ク人民ノ勉強勤儉ヲ盛ニスルノ效アリト
マクラック氏ハ結末ニ於テカヲ用エルニ過キ一方ニ

偏スルノ患ヲ免レスト雖概シテ其説タルヤ恕スヘキ
モノナリ假令第十八紀ノ戦ナカラシムルモアダムス
ミス氏ノ言ヘルカ如ク軍費トシテ徴收セシ租税ノ全
額ハ未タ必シモ貯蓄シテ國家資本ノ増加ヲ助ケサル
ヘシ然リト雖マクラック氏ノ言ノ如ク假令此戦乱ナ
カラシムルモ英國ノ資本ハ敢テ實際其千八百十五年
ニ於ケルヨリ大ナラサルベシト云フハ又當レリト云
フヘカラス如何トナレハ戦乱租税ノ功ハ能ク勤儉勉
強ヲ鼓舞スルヲ知リテ資本ノ發達ヲ妨クルノ實アル
ヲ顧ミサレハナリ蓋シマクラック氏ハ佛國トノ戦半
ハナルニ當リテ製造ノ業殊ニ紡績ノ業大ニ發達セシ
ヲ見テ此迷誤ヲ生セシナルヘシ然リト雖余輩ヲ以テ
之ヲ見レハ若シ是等ノ戦乱ナカラシメハ歐洲ノ繁榮

ハ蓋シ三十年ノ前ニ於テ己ニ千八百七十年ノ域ニ達
スヘカリシナリ
然ルニマクラック氏ハ他ノ章ニ於テハ之ヲ論スル
斯ノ如ク巖急ナラス曰ク余輩ハ頌ラク意ヲ談説ノ過
大ナルニ注キ某ノ場合ト形情ニ於テ此事アルヲ以テ
概シテ常ニ此事アリト思惟スヘカラス凡ソ人民ノ賦
課ヲ増シ勤勞節儉進取ノ氣ヲ發達スルハ徐々トシテ
之ヲ施エシ漸々トシテ之ヲ行ナフニアリ決シテ急舉
暴行國民ヲシテ其重キニ堪ヘス産ヲ傾ケ家ヲ破ルノ
甚タシキニ至ラシムヘカラス夫レ人ノ堪エヘシトス
ル所ノ艱難ハ敢テ之ニ屈セス蓋々精神ヲ勵マシ辛苦
ヲ厭ハス千思萬考之ニ勝タンヲカムヘシト雖到底
忍フヘキノ望ナキ艱難ハ初ヨリ氣ヲ失ヒ敢テ之ニ當

ルヲ欲セサルハ人ノ常情ナリ租税ノ賦課非常ニ重キ
時ハ以テ民ノ勤勞ヲ獎勵スルニ足ラス初ヨリ之ヲ避ケ
シトカムヘシ孰レノ國地方ヲ問ハス租税ノ賦課非
常ニ重ク勤勞節儉ヲ盡スモ能ク之ヲ納ル、能ハサル
ニ至レハ國民ハ却テ此勤勞節儉ヲカメスレテ營業退
歩シ國勢振ハサルニ至ル古人云ハスヤ壓制ハ能ク人
ヲシテ英雄タラシメ又能ク奴隸タラシムト租税ノ事
タル亦然リ其徵課ノ法ニ據リテ能ク人民ノ勤勞ヲ勵
マシ進取ノ氣ヲ成シニシ以テ富ヲ致サシムヘク又能
ク懶惰無氣貧困ニ陥ラシムヘシ云々

余輩カ其長文ヲ厭ハス今此ニマクラツク民ノ言ヲ舉
クル者ハ租税ノ要理ヲ論スルト奇巧ニシテ幾許ノ真
理ナキニアラスト雖概シテ過実ノ弊ヲ免サルヲ示サ

ント欲スレハナリ假令ニ租税ノ増課甚タシキニ至ラ
サレハ人民ノ體力腦力ヲ鼓舞スルノ功アルニモセヨ
其消費一國ノ為メニセサル時ハ之ヲ以テ無害ノ者ト
ナスヘカラス斯クノ如クシテ人民ノ勤勞ヲ増加スル
ハ決シテ得策ニアラサルナリ夫レ人生ハ常ニ齟齬ト
シテ体力精神ヲ勞スルヲ好マス静修逸樂ヲ欲スルハ
人情ノ常ナリ然ラハ則チ止ムヲ得サルニ非スレテ人
民ノ体カト精神ノ勞ヲ増加セント欲スルハ不可ナリ
假令歐洲大陸戦乱ノ為メニ租税ヲ増加シ英國人民ハ
其勤儉ヲ増シ却テ農工百科ノ發達ヲ致セリトナスモ
其成績ハ敢テ好ム所ニアラサルナリ何トナレハ其此
ニ至リシハ多少人民ノ逸樂ヲ剝奪セシヲ以テナリ
加フルニ租税重キニ過クルノ害實ニ争フヘカラサル

モノアリ凡ソ租税重ケレハ不正ノ事殆ント必ス起ル
租税重ケレハ其國ノ地位ヲシテ他ノ勉勵ナル國ニ及
ハサラシム租税ノ重キハ一國ノ資本ヲ外國ニ逐ヒ又
人民ヲ外國ニ移スノ勢アリ或ハ以テラク第十七紀ノ
末以來荷蘭ノ衰頽ハ租税ノ重キニ據ル國民カ資本ヲ
外國ニ置クノ風ヲ養成セシハ内地ノ租税重ク為メニ
利益ノ割合ヲ減セシニ由ルト南北ノ戰アリテヨリ合
衆國ノ租税増加シ其弊害擧テ云フヘカラサルモバア
リ千八百七十一年以後佛國ニ於テモ數種ノ工業大ニ
殘害セラレ外國ニ於テ製造所ヲ起スニ至リシハ争フ
ヘカラサルノ事實ナリ
由是觀之ハ理論ニ於テモ實際ニ於テモ重斂ノ制ヲ以
テ可トスル能ハサルナリ然リト雖余輩ハ世間ノ經濟

家カ往々唱フル所ノ最良ノ租税ハ常ニ最輕ノ租税ニ
アリト云フノ説ニ左祖スル者ニアラス元來其國ノ形
情ト場合ニ由リ租税ハ實ニ最良ナル仕拂法ナリ之ヲ
名トシテ往々國民ヲ苦ムル者アリト雖租税ハ被稅者
ニ直接ノ利ヲ與ヘサル強迫貯蓄ノ一良法タルヲ得
ヘシ若シ一國ノ租税重カラス徵收宜キヲ得保護稅ヲ
以テ内國ノ營業ヲ妨ケス被稅者ニ煩勞ヲ與ハス賦課
正平ナルハ假令租税ヲ減シ現時ノ政務ニ妨ケナキモ
減稅ノ事ハ敢テ政府ノ利ニアラス却テ少シク之ヲ増
加シ以テ有益ナル工事ヲ起シ若クハ教育ヲ盛ニスル
ニ利アリ世或ハ曰ク假令租税輕フシテ餘裕ヲ民ニ與
フルヲアルモ國民ノ負擔ハカメテ輕キヲ要ス政府ハ
濫リニ工事教育ニ關涉シテ人民ノ負擔ヲ増スヘカラ

スト曰ク然リ人民自ラ之ヲ為シテ其成績能ク政府ノ
所為ニ讓ラサレハ何ソ必スシモ求メテ國民ノ負荷ヲ
重フセン然リト雖之ヲ實地ノ經歷ニ見ルニ錢道ノ如
キ掘割ノ如キ堤防ノ如キ築港ノ如キ屢々現存ノ營業
者ヲ害シ又費用ノ巨大ナル支出ノ利子ヲ償フニ足ラ
スト雖一般ノ公益ヲ致スヤ大ニシテ其得能ク失ヲ償
フニ足ル者少ナカラス斯ノ如キ事業ニ至リテハ其利
益常ニ直接ナラス其收入ニ至リテモ其費用ヲ償フニ
足ラサル者ナリ然ルニ錢道ノ如キ小ナリト雖氏能ク
巨大ノ利ヲ與フルモノアリ譬ハ小距離ノ錢道ヲ連
絡シテ諸方ニ相通セハ能ク生産輸出ノ路ヲ開キ物品
ヲ遠キニ輸ス者近キニ送ル者皆共ニ大利ヲ被ルヘシ
故ニ其利ノ及フ所ハ廣ク且ツ大ナリト雖其得ル所ハ

遠ク且ツ間接ニシテ其利ヲ一時ニ見サルヲ以テ此輩
ヲシテ錢道建築ニ資本ヲ出サシムルヲ得サルナリ
由是觀之ハ掘割、海港、道路時トシテハ錢道ノ如キ事業
ニ至リテハ一般ノ公益タルヤ大ナリト雖各人一個ノ
利ノ為メニ起ス能ハサル所ノ者ハ政府之ニ從事スル
モ可ナリ

古人言ヘルアリ租稅ハ最モ有益ナル仕拂法ナリト之
カ為メニ弊害ヲ生セシ者少ナカラス歐洲諸國ニ於テ
ハ方今ニ至ルマテ往々租稅ヲ徵收シ其大半ハ經濟上
社會上ニ於テ無益ノ費用ニ供セシヲ以テ租稅ハ決シ
テ有益ナル仕拂法ニアラスト云フモ妨ケナカルヘシ
既往ヨリシテ之ヲ見レハ此言ヲ奇貨トシテ國民ヲ苦
メシ者少ナカラスト雖氏又行政ノ宜キヲ得タル者ハ

租税ヲ以テ公益ニ給シ有益ナル仕拂法ノ名ヲ全フセ
シ者ナキニアラス元來租税ハ國家ノ集合貯蓄ノ一種
タルヘク又一種タラサルヘカラス各人各戸ニ其富ヲ
増サント欲シテ節儉ヲ行フト行ナハサルトニ関セス
政府カ人民ノ為メニ集合貯蓄ノ意ヲ以テ租税ヲ課シ
之ヲ以テ國民ノ公有財産ヲ大ニスルハ敢テ不可トナ
スヘカラス若シ之ヲ以テ道路、堀割、海港、学校ノ如キ人
カヲ以テ國家ノ富ヲ増スヘキノ具ヲ盛ニセハ大ニ
一般開明ノ進歩ニ補ヒアルヘシ抑モ開明國ノ野蠻國
ニ異ナル所以ノモノヲ求メハ其公益ノ事業ニ於テ開
明國ノ開明國タル所ヲ見シ而シテ其事業ニ至テハ國
民ノ集合貯蓄ニ成ルモノニシテ即チ租税ニ出ルモノ
ナリ

余輩ヲ以テ之ヲ見レハ租税ハ未タ必スシモ不善ニア
ラス亦以テ善ナルヲ得ヘシ然ラハ則チ最良ノ租税ハ
最輕ノ租税ニアリト云フハ豈ニ過大ノ言ニアラスヤ
此説タル往時ノ濫費ヲ矯メント欲シテ却テ一方ニ偏
スル者ト云フヘシ然リト雖氏租税ノ賦課ハ宜シク國
民所得ノ一小部分ニ止マルヘシ然ラサレハ社會ニ一
種ノ均富主義ヲ起スヘク各人一個ノ勤勞ヲ抑制スヘ
ク己ニ論セシカ如ク國家ノ資本人民ヲ外國ニ逐フニ
至ラン
租税徵課ノ程度ハ豫メ理論ヲ以テ定ムルヲ得ヘキヤ
請フ之ヲ論セン
論者或ハ此ニ程度ヲ定ムルヲ得ヘシトナスカ如シ其
言ニ曰ク租税ニ最低点アリ最高点アリ最低点トハ行

政上ニ於テ欠クヘカラサル額之レナリ之ニ反シテ最
高點トハ人民若クハ會社カ之ヲ行フニ難ニスル所ノ
モノニシテ政府カ之ヲナスニ易キ百般有益ノ事業ヲ
起スニ要用ナル總額之レナリト（ヴァイーギエ氏ノ「トレ
ーテ」デ、ガンポー、アン、フランス」第二卷八葉ヲ見ルヘ
シ
此說タル奇巧ナリト雖不幸ニシテ實地ニ迂濶ナリ論
者ハ何等ノ事務ヲ以テ行政上ニ欠クヘカラサル者ト
ナスカ余輩ハ之ヲ定ムルニ苦シムナリ凡ソ人種ヲ異
ニシ氣候ヲ異ニシ開明ノ度ヲ異ニセハ行政ノ事務モ
亦異ナラサルヘカラス即チ匈牙利ノ魯西亞ニ於ケル
魯西亞ノ墾地利若クハ以太利ニ於ケル以太利ノ佛蘭
西若クハ日耳曼ニ於ケルカ如キ之レナリ凡ソ政府カ

國家ノ人民衆庶ノ財産ヲ保佐スルヤ過不及ナキ能ハ
ス東西必ス法ヲ異ニシ南北必ス式ヲ同フセサルナリ
顧ミテ最點ヲ見レハ何等ノ事業果シテ人民カ之ヲ
行ナフニ難ク政府之ヲナスニ易キモノナルヤ亦均シ
ク之ヲ知リ易カラサルナリ然ラハ即チ此說タル奇巧
ハ則チ奇巧ナリト雖以テ之ヲ用ヒント欲セハ曖昧模
糊トシテ未々從フ所ヲ知ラサルナリ
凡ソ國民ノ歲入ト租稅ノ至當額トノ間ニ比例ヲ定ム
ルハ常ニ臆測ヲ免レサルモノナリ夫レ世ノ經濟家或
ハ財政家ハ往々銀行紙幣ノ發行高ト準備金ノ間ニ一
定ノ比例ヲ見シトフカメリト雖某銀行ハ其準備ヨリ
四倍若クハ五倍ノ紙幣ヲ流通シ某銀行ノ準備ハ流通
紙幣ノ半ニ過クル者アリテ實際之カ一定ノ比例ヲ立

ツルヲ得サルナリ

豫シメ理論ヲ以テ是等ノ比例ヲ定ムルハ決シテ動カ
スヘカラサルノ要理タル能ハスト雖幾許カ以テ正路
ヲ示スニ足リ其益ナキニアラス即チ銀行ノ準備金流
通紙幣ノ三分一ニ達セサル者ハ其位地危シトス然リ
ト雖銀行ノ準備金流通紙幣ノ半ニ至ルモ敢テ萬全ノ
位地ニアリト云フヲ得ス如何トナレハ銀行ノ安危ハ
取扱フ所ノ手形ノ性質信用ノ大小廣狹外國貿易ノ形
狀為換ノ順逆等ニ在レハナリ

余以為ラク租稅徵課ノ程度ハ實地ノ經歷ヨリシテ其
最低点ト最高点トヲ定ムルヲ得ヘシト然レモ是等
ノ定点ハ確定不動ノモノニアラス只之ニ近キ者ノミ
請フ之ヲ陳セン

凡ソ人民各々負擔スル所ノ租稅ハ國稅地方稅協議費
ヲ合セテ其歲入ノ五分ヲ過キサル時ハ之ヲ至當ノ稅
ト云フヘシ一國ノ公債大ナラス平治無事ノ日ニアリ
テハ其賦課宜シク之ニ過クヘカラス租稅ノ徵賦國民
歲入ノ一割乃至一割二分ヲ超ヘサル時ハ尚以テ之ニ
堪ユヘシ之ヲ過クレハ重キニ過ク假令國民能ク其賦
課ニ堪ユルモ國家ノ富ノ進步ハ必ス遲滯ヲ免レサル
ヘシ又斯ノ如ク租稅重ケレハ徵收從テ繞密ニシテ國
民其煩ハシキニ堪ヘス營業ノ自由及ヒ國民ノ自由ニ
至ルマテ多少妨害ヲ被ルヘキナリ

白耳義英吉利佛蘭西三國ノ租稅ヲ見ルニ一ハ輕ク一
ハ重ク一ハ其中間ニアリ請フ各々其形狀ヲ述ベン
白耳義國ノ租稅ハ其國稅地方稅協議費ヲ合セテ國民

ノ歳入総額ノ五分ヲ過クルト多カラサルカ如シ千八百七十四年ノ豫算ヲ見ルニ白耳義政府ノ歳入ハ實ニ二億二千九百六十四万三千「フランク」ナリ（千八百七十五年刊行「アンニユエーヤ、デ、レエノミ、ポリチーク、エ、デ、ラ、スタチスチーク」四百七葉）然ルニ其八千四百五十万「フランク」ハ鑛道ヨリ收入セシモノナルヲ以テ歳入ヨリ此額ヲ減セサルヘカラス是等ノ鑛道若シ政府ニ属セスシテ人民ノ會社ニ属スル時ハ此八千四百五十万「フランク」ハ人民カ租稅ヲ以テ補ハサルヘカラサルモノナリ然ルニ白耳義政府ハ鑛道ノ辦理宜シキヲ得為メニ巨額ノ租稅ヲ減セリ然レモ今一步ヲ退テ其全額八千四百万「フランク」ヲ減セス其四分ノ三即チ六千三百万「フランク」ヲ減セハ政府カ租稅ノ性質ヲ以テ收

入セシ者ハ凡ソ一億六千六百万「フランク」ナルヘシ又郵便電信ヨリ收入スル所ノ者ハ政府カ利ヲ公衆ニ與ヘテ得ル所ノ代價ト見做スモ妨ケナシ（殊ニ白耳義ノ如ク稅率輕キ國ニ於テハ）是故ニ此二項ヨリ收入セシ所ノ者一千万「フランク」ヲ減スル時ハ白耳義政府カ租稅ノ性質ヲ以テ收入セシ所ノ高僅カニ一億五千六百万「フランク」ナリ白耳義ニ於テハ入市稅ヲ廢シテ關稅葡萄酒稅、蒸酒稅、麥酒稅、砂糖稅、郵便稅ノ一部ヲ以テ市府ニ給シ千八百七十四年ニ於テ此六稅ノ收入高ヨリ市府ニ給セシ者ハ實ニ二千百八十八万四千「フランク」ナリ（此額ハ一億五千六百万ノ外トナス）尚州郡市府ノ歳入ハ數種ノ財源アリ其重ナル者ヲ直稅ノ副稅及ヒ臨時ノ特別稅トナス中央政府ノ直稅收入高ハ殆ント

四千万「フランク」ニ近シ州郡及ヒ市府ニ於テ之カ副税
ヨリ得ル所ハ中央政府ノ直税ヨリ多キモ必ナカラサ
ルヘシ試ニ他ノ副税ヲ合セテ六千万「フランク」ヲ得ル
トセハ州郡及ヒ市府ノ租税ハ大凡八千二百万「フラン
ク」トナル之ヲ以テ中央政府ノ歳入一億五千六百万「フ
ランク」政府ノ鐵道利益ノ凡四分ノ三郵便電信ノ收入
ハ政府ノ營業利益トシテ之ヲ除キニ合ス時ハ白耳義
ノ租税收入高ハ國税地方稅協議費ヲ合セテ二億三千
八百万「フランク」ニ過キササルナリ白耳義ノ人口ハ凡ソ
五百万幅員三百万「エクタール」ナルヲ以テ之ヲ見レハ
其疆域ハ佛國ノ十七分ノ一人人口ハ其九分ノ一ナリ然
ルニ佛國ノ租税ハ平均一人ニ付凡ソ八十六「フランク」
ナリト雖白耳義ノ租税ハ一人ニ付平均僅カニ四十八

「フランク」ニ過キス思フニ白耳義國民一歳ノ收入ハ四
十億「フランク」ヲ下ラサルヘシ然ラハ則チ二億三千八
百万「フランク」ノ租税ハ凡ソ國民歳入ノ六分ニ當ルモ
ノニシテ頗ル輕税ト称スヘキナリ之ヲ歐洲全國ニ求
ムルニ如此ク租税ノ輕キ者ヲ見ルヘシ
英國ハ一大富國ニシテクライミアノ役ヲ除キ六十年
以來大戦ト称スヘキ者ナク第十九紀ノ初メヨリ漸次
國債ヲ減却シ國税ノ徵收甚々重カラス然ルニ之ニ反
シテ州郡市邑宗邑ノ租税ハ頗ル重シ千八百七十三年
度ノ會計豫算ニ於テ國税收入高ハ十九億二千八百万
「フランク」余ニ上レリ電信建設ノ爲メニ募集セシ公債
八十万「ポンド」ナルヲ以テ之ヲ減除スレハ英國當年ノ
國税收入高ハ七千六百五十三万五千「ポンド」ナリ二十

五「フランク」二十「サンチム」ヲ以テ一「ポンド」ニ均シト
スレハ十九億二千八百万「フランク」余トナル「郵便税電
信料ハ真ノ租税ニアラス只ニ政府ノ手数料ナルヲ以
テ郵便税一億五千万「フランク」電信料三千万「フランク」
ヲ減除セサルヘカラス加フルニ土地ノ收入一千万「フ
ランク」ヲ減スレハ國稅ノ收入高ハ十七億三千八百万
「フランク」トナル又地方ノ收入ハ公債募集地方所有ノ
財産中央政府ノ補助金ヲ除キ直税間税ヲ合セテ千八
百七十一年ニ於テハ六億六千六百万「フランク」ナリ二
千六百四十四万四千百三十六「ポンド」(千八百五十九年
ヨリ千八百七十三年ニ至ル迄十五年間英國統計年表
ニ據ル)由是觀之ハ全英國ノ國稅地方稅協議費ハ合セ
テ二十四億四百万「フランク」トナル顧ミテ全英國人民

ノ歳入ヲ見ルニ千八百七十二年ニ於テ被稅ノ歳入總
額ハ百二十一億五千四百万「フランク」(四億八千二百三
十三万八千三百十七「ポンド」)ト稱ス此數タル其實際ニ
及ハサルヤ疑ヲ容レサルナリ凡ソ人民ノ歳入ニ稅ヲ
課スル時ハ人民ハ其歳入ノ全額ヲ告ケス其三分ノ二
若クハ四分ノ三ヲ告ケルハ通慣ナリ故ニ政府ニ於テ
被稅歳入ノ額ト稱スル者ハ決シテ實數ニアラサルナ
リ今假リニ英國人民ハ其歳入ノ實額五分ノ四ヲ申告
セリトセハ所得稅ヲ拂フヘキ歳入ノ總額ハ百五十億
「フランク」ニ下ラサルヘシ元來英國ニ於テ所得稅ヲ課
スルハ人民ノ歳入二千五百「フランク」以上ヲ有スル者
トス然レトモ實際ニ於テハ蓋シ所得稅ヲ出ス者三千
「フランク」若クハ三千五百「フランク」以上ノ歳入ヲ有ス

ル者ニシテ勞カ者小農夫小商ノ如キハ悉ク所得稅ヲ免ルヘシ是等ノ免稅者ハ所得稅ヲ拂フ者ヨリ多キヲ七倍若クハ八倍ヲ下ラサルヘシ是等ノ歳入モ亦凡ソ百五十億「フランク」ナルヘシ然ラハ則チ全英國人民ノ歳入ハ凡ソ三百億「フランク」ナリ中央政府地方政府ノ租稅收入高ヲ以テ之ニ比スレハ英國ノ租稅ハ國民歳入ノ凡ソ八分トナル之ヲ以テ白耳義ノ租稅ニ比スレハ重シト雖佛國ニ比スレハ頗ル輕シト云フヘシ千八百七十七年佛國政府ノ豫算收入額ハ概數二十六億七千二百万「フランク」ナリ然レトモ右ノ收入額ハ官有地官工官林等ノ收入五千二百万「フランク」官祿稅千八百萬「フランク」アルゲエリエンソシエテ「ヨリ借入レタル公債三百五十万「フランク」ヲモ實入セシモノナリ

是等ノ收入ハ實ニ租稅ニアラス加フルニ烟草及ヒ火藥ノ粗生品買上代並ニ製造費六千三百万「フランク」ハ政府ノ特別費ニシテ此費用ニ給スル者ハ國民ノ收納スル租稅ト云ヒ難シ如何トナレハ假令ヒ政府ニ於テ烟草火藥ノ稅ヲ廢シ該物品ヲ製造ヲ自由ナラシムルモ之ヲ消費スル者ハ常ニ其價ヲ製造者ニ拂ハサルヘカラサレハナリ故ニ收入總額ヨリ此一億三千六百五十万「フランク」ヲ減スレハ政府ノ租稅收入ノ高ハ概數二十五億三千五百万「フランク」トナル尚郵便稅電信料八千六百万「フランク」ハ租稅ノ性質ヲ有スル者ニアラス又大學校ノ收入四百五十万「フランク」アルゲエリ一國ノ貢租二千四百五十万「フランク」ハ政府ノ歳入ニ合算スト雖一ハ政府ノ收入ニアラス一ハ佛國人民ノ納

税ニアラサルヲ以テ之ヲ減除セハ佛國人民カ負擔スル租税ノ高ハ千八百七十七年ニ於テ二十四億二千百万「フランク」ナリ。顧テ州郡市府ノ租税ヲ見ルニ統計甚々精密ナラスシテ完全ナル計算ヲ得ル能ハス千八百七十七年ニ於テ州郡市府ノ直税特別直税中央政府ノ特別收入州郡ノ臨時收入ヲ合シテ三億九千万「フランク」トナル然ルニ其凡ソ二千五百万「フランク」ハ公債募集萬若クハ中央政府ノ補助金中央政府ノ補助金ハ已ニ中央政府ノ收入高ニ算入セリナルヲ以テ之ヲ以テ減除スレハ三億六千五百万「フランク」トナル市府ノ收入ハ重ニ入市税其他數種ノ雜税トス佛國統計表ニ據レハ千八百七十七年ニ於テハ入市税ヲ課スル市府ノ數千五百八收入

高一億九千九百五十萬「フランク」ナリト云フ此以後ニ於テハ未タ完備ノ數ヲ得ス官報ニ據レハ入市税ノ外百般ノ租税ヨリ收入セル者千八百七十一年ニ於テ巴黎府ノ歳入ハ三千七百万「フランク」ニ下ラス其他ノ市府ハ合セテ一億千七百五十萬「フランク」ニ上レリ是等ノ租税ハ犬税、銃獵税、市場税、屠場税、荷庫税、葬式税、營業馬車税、道路費、点燈費、掃除費、等ナリ是等ノ税ニ對シテハ政府ヨリ直接ニ且ツ特別ノ報酬ヲ得ヘキ者アルハ論ヲ待タサルナリ若シ州郡市府ノ直税間税ヲ合計セハ公債ヲ募リテ收入セシ者地方所有ノ財産ヨリ收入セシ者ヲ除キ凡ソ七億二千万「フランク」トナル尚真ニ租税ノ性質ヲ有セサル者二千萬「フランク」ヲ減除セハ佛國地方税ノ全收

入高ハ七億「フランク」ニシテ英國ノ地方税ニ過キタリ
由是觀之ハ佛國ノ州郡市邑ノ公債ハ英國ヨリ大ニシ
テ市府ノ收入ハ消費税ノ法ヲ以テ巨額ノ歳入ヲ得ル
「英國」ノ該法ヲ行ナハサル者ヨリ容易ナルヤ明ラカ
ナリ

佛國人民カ負擔スル所ノ者ハ國稅凡ソ二十四億二千
百万「フランク」地方税七億「フランク」合セテ三十一億二
千百万「フランク」ナリ然リト雖佛國人民ノ歳入ニ至リ
テハ甚々之ヲ知ルニ苦シム元來佛國ニ於テハ租稅ヲ
以テ人民ノ歳入ニ課スルノ制ナシ只不動産稅アリテ
少シク推量ノ助トナルノミ今佛國ノ形情ヲ以テ英國
ニ比スルニ佛國ノ人口ハ英國ノ人口ヨリ多キ「四百
万佛國」幅員ハ英國ヨリ大ナル「五分」ノ二大工業ハ

英國ニ及ハサルモ精工業ハ遙ニ英國ノ右ニアリ市府
ノ富ハ英國ニ及ハサルモ農夫ノ富ハ英國ノ企テ及フ
所ニアラス英國人民ノ富ハ一方ニ偏スト雖佛國人民
ノ富ハ普ク一般ニ及フ是等ノ情状ヲ相比較シ英國人
民ノ歳入三百億「フランク」ナルヲ以テ之ヲ見レハ佛國
人民ノ歳入ハ凡ソ二百五十億「フランク」ナリト云フモ
敢テ大過ナカルヘシ

二百五十億「フランク」ノ歳入ニ課スルニ三十一億二千
百万「フランク」ノ税ヲ以テセハ佛國ノ租稅ハ國民歳入
ノ一割二分五厘ニシテ人々ノ歳入ノ凡ソ八分ノ一ハ
租稅トシテ徵收セラルモノト云フヘシ方今ハ尚能ク
斯ノ如キ重稅ニ堪エルト雖今日ノ勢ニシテ租稅ノ賦
課年ニ増加セハ久シカラステ民將ニ其弊ニ堪ヘサ

ラントス若シ佛國人民ノ勤勞貯蓄減縮セス資本該地ニ移ラサルヲ欲セハ今日ノ賦課ヲ減セサルヘカラス假令之ヲ減セサルモ決シテ之ヲ増加スヘカラス若シ佛國人民ノ負擔三十一億二千百万「フランク」ニ止ラハ佛國ノ富ハ年ニ数百万ヲ増加スルヲ以テ負擔ノ割合ハ年ニ減少スヘキナリ

佛國ニ於テ人民ノ貯蓄金ノ銀行ニ入ル者年々凡ソ百二十億「フランク」ナリ其他土地ノ改良ニ用ヒ諸營業若クハ動産ニ入ル、者モ亦敢テ此額ヲ下ラサルヘシ

斯ノ如ク三國租稅ノ行情ヲ比較スレハ各々輕重アリ白耳義ハ國民歳入ノ六分ニ當リ英吉利ハ其八分佛蘭西竊モ重フシテ一割二分ニ過キ各々薄歛ト稱スヘキ

モノナシト雖又敢テ其重キニ堪ヘサルモノナシ只佛蘭西ノ一國ハ殆ント竊高ノ点ニ達シ若シ新々ニ租稅ヲ増サハ國ノ經濟ニ於テ危害ヲ免レサラントス己ニ論セシ如ク凡ソ一國ノ施政宜シキヲ得ル者ニシテ國債ヲ負フノ不幸ナケレハ其租稅ハ國民歳入ノ五分ニ過クヘカラス然ルニ又徵課輕キニ過キ四分以下ニ至ルト雖敢テ國家ノ大利ニアラサルナリ如何トナレハ政府ハ常ニ有形上無形上ニ於テ社會ノ公益ニカヲ尽ス「アリ加フルニ四分ノ徵賦ハ人民ニアリテモ之ヲ負フ「易ク敢テ國家ノ諸營業貿易ヲ妨クルニ至ラサレハナリ五分ヨリ九分若クハ一割ニ至ルノ間ハ敢テ大ニ人民ヲ苦シムルニ至ラス一割以上ニ至リテハ租稅甚々重ク人民ヲ壓抑困苦セシムルノ患ヲ免レ

ス一割五分若クハ一割六分ヲ過キハ大ニ人民ニ害アリ
リ國民資本ヲ外國ニ逐ヒ殆ント回復スヘカラスルニ
至ルヘシ方今以太利ノ祖稅ハ殆ント極點ニ達シ大ニ
社會ヲ亂ル只ニ社會ヲ亂ルノミナラス稅法モ亦從テ
亂レ私曲奸計從テ起リ其弊遂ニ云フヘカラスルニ至
レリ

